

県関係受章者



瑞宝小綬章

久保田 幸栄さん

裁判所事務功勞

1963年に琉球上訴裁判所(後の琉球高等裁判所)に事務官として採用され、本土復帰後の79年に書記官の資格を取得した。復帰後に日本の制度で書記官の資格を取ったのは県内では2番目だったという。以来、書記官、事務官として約40年、県内外で裁判所業務に携わった。裁判の内容を公に証明する重要な

旭日双光章

安富 泰次郎さん

水産物加工業振興功勞

1949年から自宅隣のかまぼこ工場に勤めて以来、かまぼこ製造一筋。62年に次郎屋かまぼこを創業、78年の組合設立にも中心となって奔走した。設立以来組合長を務め業界を引っ張ってきた。
「誠意を持って、真面目に、一生懸命やる」ことをモットーにしてきた。かまぼこ製造は深夜から早朝にかけて



被告人の今後へ思い

役割を持つ書記官。「裁判官と書記官は車の両輪のような関係」と説明する。刑事裁判では「今後、被告人が道を踏み外さずに人生を送ってくればと願いながら立ち会った」と振り返った。
「健康で定年を迎えられたのが一番。資格を取って書記官の仕事もできたことは良かった」。「職場の先輩や後輩の支えがあつたの受章」と周囲への感謝の気持ちを表した。定年後も調停委員、司法委員、沖縄労働局の総合相談員として忙しい日々を送る。
くぼた・こうえい 70歳。裁判所事務功勞。元那覇地方裁判所刑事首席書記官。那覇市識名1253の73

かまぼこ業界けん引

製品の品質は、全国の品評会で最高賞を含め数々の賞を受賞した。「原点は大切にして、試行錯誤しながら新しいものも作っていくことやってきた」
組合では講習会を開くなど技術向上を図り、価格や供給量の安定のために、原料の冷凍すり身を共同で購買する事業などに取り組んできた。組合を構成する業者は現在24業者で、設立当初の約半分。後継者不足も背景にある。厳しい面もあるが「切磋琢磨しながらやっていく」と語った。
やすとみ・たいじろう 81歳。水産物加工業振興功勞。県蒲鉾水産加工業協同組合代表理事組合長。那覇市国場224の3

旭日重光章

嘉数知賢(かかず・ちげん) 70歳。議案審議功勞、元内閣府副大臣、名護市大中5の2の5

旭日小綬章

蔡靈泥(サイ・セツレイ) 76歳。日本・台湾間の相互交流・相互理解の促進に寄与、中琉文化経済協会理事長、台北市中山区民権西路48号5F

12の22
荻堂盛秀(おぎどう・もりひで) 72歳。中小企業振興功勞、県商工会連合会会長、名護市大東2の

旭日双光章

ロバート・トシオ・仲宗根(ろぼーと・としお・なかそね) 74歳。日米相互理解の促進および友好親善の増進に寄与、元ハワイ日系人連合協会会長、米ハワイ州ホノルル市パシフィッククハイツ通り3012

上原一夫(うえはら・かずお) 76歳。地方自治功勞、元国頭村議会議員、国頭村辺王名

大城浩(おおしろ・ひろし) 84歳。地方自治功勞、元名護市代表名護市市長、監査委員、名護市大中1の9の2

我妻屋宏(がみや・ひろし) 71歳。業事功勞、元県医薬品卸業協会会長、那覇市久米2の3の3

岸本恵光(きしもと・けいこう) 70歳。地方自治功勞、元県議会議員、本部町崎本部4578

金城榮幸(きんじょう・えいこう) 70歳。地方自治功勞、元東風平町長、八重瀬町東風平209

呉屋正行(ごえ・まさゆき) 76歳。地方自治功勞、元宜野湾市議会議員、宜野湾市大山3の8の17

野村功(のむら・こう) 70歳。地方自治功勞、元那覇市議会議員、那覇市識名1253の73